

平成27年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
生徒の幅広い学習ニーズに対応する学習の機会の提供と授業改善の推進 (学習支援G)	<p>○知・徳・体の調和のとれた人材の育成を目指して、教育課程や指導体制の工夫と改善を行う。</p> <p>○学校評価、授業評価を反映した授業改善プログラムに基づいた組織的な授業改善を実践し、生徒の授業への意欲、満足度を高める。</p> <p>○授業の目標を明確にし、生徒・保護者の学習ニーズに即した教育活動を展開する。</p>	<p>○指導体制を整備し、個々の生徒にきめ細かな指導をすることができたか。</p> <p>○「生徒による授業評価」の結果等をふまえ、授業見学や授業研究に全職員で取り組み、授業改善を図ることができたか。</p> <p>○それぞれの授業の目標を生徒に示し、生徒、保護者の学習ニーズに応じた授業を展開することができたか。</p>	<p>・「年間授業計画」により、目標や評価等について理解を促し、生徒達が意欲的に学習しやすい状況を調えることを目指した。</p> <p>・「生徒による授業評価」の結果等もふまえ、相互授業公開期間を設け、互いに授業改善に取り込んだ。特に本年度は昨年度までの「授業改善」を検証し、その意義や趣旨について共通理解を図ることめざし、ワークショップの形式で研究協議を行った。</p> <p>・授業形態や教材等の工夫、特に情報機器の活用等により、生徒主体の学習を推進し、学習意欲を引き出すよう努めた。</p>	<p>・「年間指導計画」による説明は、生徒の学習意欲を高めるために効果があったと思われる。</p> <p>・「生徒による授業評価」の調査方法や活用方法については今後検討の必要がある。</p> <p>・わかりやすい授業の一方法として、情報機器を使った授業も多くなってきたが、その操作方法や効果的な使い方について研究が必要である。</p>	<p>(保護者)</p> <p>・生徒がわかる授業、積極的に学習できる授業となるよう工夫してもらいたい。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・授業改善で授業形態、教材の工夫や意識の統一を図る新たな取組みを実施しており、今後もさらに推進して生徒が積極的に参加できる授業に取り組んで欲しい。</p> <p>(その他)</p> <p>・授業展開について様々な工夫がなされている。今後は生徒がより主体的に意欲的に取り組める授業を期待したい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>・「授業改善」を検証し、教科等で研究協議を行い、共通理解を図ることができた。</p> <p>・授業形態や教材等の工夫、情報機器の活用等により、生徒主体の学習を推進し、学習意欲を引き出すことができた。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>・さらに生徒の学習意欲を高めるために、教材の工夫や情報機器の活用を推進していくことが必要であるが、その操作方法や効果的な使い方について研究が必要である。</p>
生徒が安全・安心に学校生活を送ることのできる教育環境や生徒指導・支援の充実と改善 (生徒支援G・生活指導G、学校管理G)	<p>○遅刻指導、身だしなみ指導、交通安全指導などの質の向上を図り、生徒の基本的な生活習確の確立に努める。</p> <p>○教育相談やケース会議機能をより機能させ、生徒の学校生活への支援の充実を図る。</p> <p>○二宮高等学校いじめ防止基本方針を踏まえ、いじめ防止の指導を徹底、充実させる。</p> <p>○生徒の環境問題に対する意識を高め、ゴミ分別やエコキャップ回収運動などを推進するとともに、校内外の清掃を徹底して整然とした教育環境をつくる。</p> <p>○学校内外であいさつが自然に交わせる指導の充実を図る。</p>	<p>○遅刻指導、身だしなみ指導、交通安全指導などの効果が前年度と比較して上がったか。</p> <p>○教育相談回数と内容、ケース会議の内容はどうであったか。支援体制充実のための具体的方策を行ったか。</p> <p>○いじめ防止アンケートの内容や相談ポストの設置など改善に努めたか。</p> <p>○各清掃場所でゴミの分別ができたか。</p> <p>○ISOへの理解から生徒の環境意識が高まったか。</p> <p>○外来者へのあいさつの状況、校内でのあいさつの励行状況はどうであったか。</p>	<p>・登校時、校門で月2回程度身だしなみ指導を実施するとともに、日常的にも指導を行った。交通安全指導も定期的に行い一定の効果あげることができた。二人乗りなど自転車の乗車方法で指導される生徒の数は減少した。</p> <p>・学年を中心に生徒の状況把握に努め、必要に応じケース会議の実施や外部機関との連携を行った。湘南養護学校の職員より支援方法や支援シートの活用等のアドバイスを受け参考にすることができた。</p> <p>・いじめ防止会議を年3回、いじめアンケートを年2回実施し、状況の把握に努めるとともに生徒への注意喚起に努めた。</p> <p>・清掃活動やゴミの分別回収、エコキャップ運動への取組みは引き続き良好であり、生徒の環境や校内美化に対する意識は着実に向上している。</p> <p>・ISO研修会を実施し、職員の意識向上を図った。</p> <p>・保護者とともに学校環境整備事業(今年度は中棟各階の防火扉のペンキ塗り)を実施し、一定の改善をみた。</p>	<p>・自転車の乗り方に関する近隣からの苦情が多い。交通安全指導を始め、生活指導全般に職員全体で取り組む方策をさらに検討していく。</p> <p>・学年を中心に有効な支援体制が取れるよう生活指導グループと学年団の連携を深めていく。</p> <p>・本校の「いじめ防止基本方針」の内容を検討し、見直しを含め検討する機会を設ける。</p> <p>・今後も環境教育・校内美化に対する積極的な働きかけを実施する。ISOの理解と取組みについては、さらなる啓発が必要であり、今後も推進する。</p> <p>・保護者とも連携して教育環境の整備を推進する。</p>	<p>(保護者)</p> <p>・学校生活について先生に任せすぎのような感じがする。家庭でもっと話し合っ指導していくことが大切と思う。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・2~3年前と比較すると自転車の乗り方のマナーはだいぶ良くなってきている。</p> <p>(その他)</p> <p>・登下校中に挨拶をしたり、声をかけてくれる生徒が増えてきた。ただ、自転車の2人乗りを注意しても言うことを聞かない生徒もいる。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>・交通安全指導については一定の効果あげることができた。自転車のマナーについてはさらに指導していくことが必要である。</p> <p>・ケース会議の実施や外部機関との連携を積極的に行ない成果があった。支援方法や支援シートの活用等のアドバイスを受け参考にすることができた。</p> <p>・生徒の環境や校内美化に対する意識は着実に向上している。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>・交通安全指導を始め、生活指導全般に職員全体で共通理解を図り、取り組む方策をさらに検討していく必要がある。</p> <p>・学年を中心に有効な支援体制が取れるよう生活指導グループと学年団の連携を深めていく。</p> <p>・保護者と連携して教育環境の整備を推進する。</p>

<p>自己肯定感を醸成し、生徒の学習意欲の向上を図る学習指導による確かな学力の育成 (学習支援G)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識及び技能の習得を促すことにより、主体的に授業に取り組む態度を育成する。 ○生徒に「わかる授業」を実践することにより、思考力・判断力・表現力等、生徒の潜在能力を引き出す。 ○長期休業中の補習・講習や放課後等の補習を充実させ、生徒の学習意欲と達成感を高める。 ○地域等連携教育を推進し、生徒の自己肯定感を醸成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別学習、小集団学習を効率的に行うことができたか。 ○発表の場を設けるなど、生徒主体の授業が展開できたか。 ○長期休業中の補習・講習の実施状況が充実したか。 ○学習意欲の向上を図るため、放課後等に補習のできる体制を整えられたか。 ○地域等連携教育により、生徒の自己肯定感を醸成できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習、小集団学習等は継続的に実施し効果もあった。 ・個々の教員が「相互授業見学」等をもとに、その時々で、個に応じた承認、激励等、評価を行う機会を設けた。 ・本年度も長期休業中、特に夏季には多くの補習講座を開講し、実施した。 ・生徒の希望に応じて、放課後や休み時間を利用して補習等がかなりの頻度で行われ、生徒の学習意欲と達成感を高める効果があった。 ・家庭科部、演劇部、ボランティア同好会や図書委員会が地域と連携して種々の活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習については、作問・成績処理や指導方法等について検討・協議が継続的に必要である。 ・授業改善については毎年検討し、新たな方法を試みる必要がある。 ・長期休業中の補習については、多くの生徒が受講活用するよう引き続き指導していきたい。 ・本年度も昨年度同様、地域連携のまとめとして発表会も行い、生徒の自己肯定感醸成の一助となった。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭等を見ると、生徒が自主的、積極的に活動していた。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象とした演劇部の取組みはぜひ継続してもらいたい。 ・地域のボランティア活動に今後も積極的に参加できるように学校で取組んでもらいたい。 <p>(その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習、小集団学習等は効果もあった。 ・「相互授業見学」等を実施し、個に応じた承認、激励等、評価を行う機会を設け、共通理解を図った。 ・放課後等の時間を活用して補習等が高い頻度で行われ、生徒の学習意欲と達成感を高める効果があった。 ・部活動、委員会等が地域と連携してボランティア活動等をはじめとする種々の活動を行い、生徒の自己肯定感醸成の一助となった。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習については、作問・成績処理や指導方法等について検討・協議が継続的に必要である。 ・長期休業中の補習については、多くの生徒が受講して活用するよう工夫が必要である。 ・地域等連携教育については継続して行なっていく。
<p>一人ひとりの生徒のキャリア発達を支援し、個々の進路希望の実現を図る体系的なキャリア教育の推進 (進路支援G)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な学習や進路に結びつく学習の様々な機会を提供する。 ○キャリア教育計画に沿って、キャリア発達に対応した進路ガイダンス、SSテストの導入、指導の充実を図る。 ○校外学習等で、コミュニケーション能力を育成する。 ○社会参加する能力や態度を育成するため、シチズンシップ教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○インターンシップや高大連携を推進し、様々な機会を提供できたか。 ○キャリア教育計画が計画的に運用できたか。また、進路ガイダンス等指導の充実を図れたか。 ○校外学習等で、生徒に幅広い教養を身につけさせるとともに、コミュニケーション能力を育成できたか。 ○授業や学校行事を通じて、シチズンシップ教育を推進できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ事前職員訪問をおこないより綿密な提供ができた。1年大学訪問は、講話を受け身近に大学を体験できた。1・2年実施のOB講話なども自己の将来像を思い描かせることができた。 ・学年進行に応じた全体説明、分野別説明、個別対応の順にメニューを用意できた。 ・シチズンシップ教育の一環として、3年選挙権直前指導をおこない、社会的責任・法の遵守・地域やより広い社会と関わることの機会を提供することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先を考慮した進路指導をおこなうために、実力テストを導入したが、まだ成果が出るまでに時間がかかり根気強い努力が必要である。 ・学年進行を意識できるよう学年担当の理解を強めていきたい。 ・生徒の可能性を高めるには何を改善すればよいか常に検討が必要である。 ・学年集会等日常の中での進路に関する話を増やしていきたい。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路について先生に任せすぎのような感じがする。家庭でもっと話し合っって指導していくことが大切と思う。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路を選択するための多彩な取組みが大学・短大への進学に繋がっている。 <p>(その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ事前職員訪問をおこない、より綿密な提供ができた。 ・1年大学訪問は、講話を受け身近に大学を体験できた。 ・キャリア教育計画に応じた学年進行に合わせた全体の説明等のメニューを用意できた。 ・シチズンシップ教育の一環として、3年選挙権に関する指導をおこない、社会と関わることの指導ができた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導をおこなうために、実力テストを導入したが、まだ成果が出るまでに時間がかかり根気強い努力が必要である。 ・進路について生徒の可能性を高めるには何を改善すればよいかを常に検討が必要である。

<p>地域との協働や連携による、地域の信頼に根ざした生徒主体の教育活動の推進 (生徒支援 G、学習支援 G)</p>	<p>○地域貢献活動、地域貢献デー、スィーパーキャンペーン、学校行こう週間、橘花祭（文化祭）等を通して広く教育活動を紹介し、地域の方々に信頼される学校づくりに努める。 ○年間を通じて、ボランティア活動や地域行事等への参加を促進し、定着化に努める。 ○地域協働による活動を通して、地域等連携教育を推進する。</p>	<p>○各学年年 1 回の地域清掃活動の実施や文化祭の一般公開等を通して、教育活動の広報ができたか。 ○ボランティア活動や地域行事等への参加状況、地域からの評価はどうか。前年度から継続的参加の状況はどうか。 ○地域協働による地域等連携教育を推進できたか。</p>	<p>・6月に1年生、9月に2年生、11月に3年生がそれぞれ地域清掃活動を実施し、地域の方々に本校の取り組みを知っていただく機会となった。また、文化祭一般公開日には約1200名の方が来校され、本校の教育活動を多くの方々に広報できた。 ・ボランティア活動への参加生徒は昨年並みであった。地域行事へも昨年に引き続き参加することができ、地域から一定の評価を得られた。 ・ボランティア掲示板を設置し、ボランティア等の生徒への周知を図り、特に、地域のボランティア活動への参加を推進した。</p>	<p>・地域清掃活動の際に、地域のボランティア活動団体の方だけでなく、PTA と協働した新たな取り組みを検討する。 ・ボランティア活動について、事例発表等を通じて理解を深め、参加意欲の向上に努める。 ・地域の情報を収集し、生徒と地域の協働活動をさらに活性化していく必要がある。</p>	<p>(保護者) ・被災地ボランティアに参加する等、生徒が学校外の活動に積極的に参加するなど意欲的になってきた。 (学校評議員) ・地域の防災関係指導員の活用も考えてはどうか。 ・学校を地域コミュニティの場としてほしい。地域等連携教育の充実を期待したい。 (その他)</p>	<p>(学校評価) ・地域行事へも昨年に引き続き参加することができ、地域から一定の評価を得られた。 ・ボランティア掲示板を設置し、ボランティア等の生徒への周知を図った。地域のボランティア活動への参加を推進した。 (改善方策等) ・地域清掃活動の際に、地域と協働した新たな取り組みを検討する。 ・地域の情報を収集し、生徒と地域の協働活動をさらに活性化していく必要がある。</p>
<p>機能的な学校運営と事故・不祥事防止体制の確立 (情報管理 G、学校管理 G)</p>	<p>○成績処理・調査書発行等の細心の注意を必要とする場面において、マニュアル等を作成し、より確実な点検を行うことにより事故防止に努める。 ○業務の効率化を目指し、グループと学年の縦系列、横系列の連絡・調整を密にし、連携の取れた学校運営を推進する。 ○日常点検と効果的な事故防止研修会を企画運営し、教職員の自己啓発に努める。 ○会計マニュアルを遵守し、適正な会計処理を遂行する。 ○防災計画を踏まえた防災教育と地域に連携した防災体制の充実を図る。</p>	<p>○重要事項に関して、日程等を調整し、複数の目による点検や、繰り返し確認を実施することができたか。 ○企画会議や学年会議等を活用してグループの連携ができたか。 ○事故防止について職員の意識が高められたか。 ○適正な会計処理ができたか。 ○生徒の防災意識が高まったか。 ○防災に関わる地域との連携が図れたか。</p>	<p>・成績処理・調査書作成等の重要事項に関して、研修会や日程等の見直しを行い、より慎重で丁寧な点検を繰り返し実施することにより、事故の未然防止に努めることができた。 ・企画会議や学年会議、また、入学者選抜業務等のグループ横断業務を通じて、グループ間の連携を密にとることができた。 ・複数のチェック体制をとり、会計マニュアルを遵守し適正な会計処理を行った。 ・本校は二宮町の広域避難所・広域避難場所に指定されており、8月実施の二宮町防災訓練に参加した。 ・5月と12月の2回、防災訓練を実施した。また今年度はじめて、二宮町防災安全課の職員を講師役として防災教育（災害図上訓練）を実施した。その際、保護者約20名が参加し多様な視点からの意見を得ることができた。 ・次年度の入学生から、各生徒用に梱包された防災備品の購入を決定し、防災備品の充実を図った。</p>	<p>・重要事項に関わる不祥事ゼロを目指して、点検日程や点検方法に関する、よりいっそうの工夫・改善を進めていく必要がある。 ・職員の意識は高まっているが、引き続き啓発していく必要がある。 ・会計マニュアルを遵守し、各担当者との連絡を密にして、事故のないよう適正な会計処理に努める。 ・防災マニュアルを整備すると共に、職員・生徒の防災意識をより高めるように取り組みをすすめる。 ・地域や自治体、保護者との防災連携について、具体的にどのようなことが可能なのか、検討をすすめる。 ・防災備品のさらなる拡充について検討をすすめる。</p>	<p>(保護者) ・D I Gは生徒と防災について話す機会があつて大変有意義であった。 (学校評議員) ・地域、小学校、中学校と連携した防災の取組みができればと考えている。 (その他)</p>	<p>(学校評価) ・成績処理等の重要事項に関して、日程等の見直しを行い、より慎重で丁寧な点検を繰り返し実施して、事故の未然防止に努めることができた。 ・グループ横断業務を通じて、グループ間の連携を密にとることができた。 ・複数のチェック体制をとり、会計マニュアルを遵守し適正な会計処理を行った。 ・防災教育（災害図上訓練）を実施し、地域、保護者、生徒の連携を図った。 ・次年度の入学生から、各生徒用に梱包された防災備品の購入を決定し、防災対策の充実を図った (改善方策等) ・不祥事ゼロを目指して、点検日程や点検方法に関する、よりいっそうの工夫・改善を進めていく必要がある。職員の意識は高まっているが、引き続き啓発していく必要がある。 ・職員・生徒の防災意識をより高めるように取り組みをすすめる。また、地域や自治体、保護者との防災連携について、具体的にどのようなことが可能なのか、継続して検討をすすめる。</p>